

# 令和6年度 学校の業務改善

## -「子どもたちと向き合う時間」と「教職員のウェルビーイング」のために-

### 子どもの自主性を育む 手をかけすぎない指導

子どもを中心とする指導観への変換  
・「ティーチング（教える）」から  
「コーチング（導く）」へ  
・「一斉」から「個別最適」へ  
・「与える」から「選ぶ・考える」へ

例えば…

- 子どもたちが  
・夏季学習会の計画を立案（織田中）  
・生徒主体による行事の運営（金津中）  
・毎日30分のプロジェクト化（勝山中部中）など

### 校務全般におけるDXの推進

#### ICTの日常的な活用

- 得意な先生だけのものにしない
- 常にICT活用を意識
- 広がる可能性の創出

例えば…

- Teamsを利用した職員間の情報共有（南越中）  
C4th Home&Schoolによる、おたより配布や連絡のデジタル化（大飯中）  
健康観察のデジタル化（坂井市）など

### 新たな挑戦 -当たり前の再考-

これまでの価値観・常識からの脱却

- 削減や精選に拘らない見直し
- 働きがいと働きやすさ
- 職場の心理的安全性

例えば…

- 低学年で1週間の時間数削減（日之出小）  
時校表・学校行事の見直し（岡本小）  
チーム力とコミュニケーション（敦賀西小）  
ワークスタイルボーティング（武生高校）など

先生が、ていねいに教えないとい理解できないのでは…。  
先生が、考えた宿題を出さないと成績が下がるので…。  
先生が、子どもたちの先回りをして準備しないと  
有意義な活動とならない…。

「子どもたちの主体的な学び」を目指すが、思うように進まない  
「子どものために」時間をかけることを良しとする教員の意識  
「対話的な活動」の経験不足など

ICTは苦手。正直、得意な先生に任せた方が…。

ICTを使わないほうが、経験を活かせて効果が  
大きい…。

忙しくて、新しいことを始める余裕がない…。

登下校や見守りなど任せていいのだろうか…。

下校時間が早くなると、帰宅後の生活が心配…。

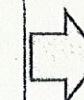
保護者や地域の理解を得られないのでは…。

先生のやりがいって何だろう…。

「学校」「先生個人」によって差がある  
ICT担当者など一部の先生任せに  
紙媒体でも活動が止まるわけではないので後回しになど

子どもたちが在校している時間は、子どもたちへの指導に従事  
子どもたちが在校する時間の見直しが必要  
コロナ禍で見直した行事を、安易に戻さない  
勤務時間外に会議等を行わない（※超勤4項目除く）

- ICTの活用（欠席連絡・集計/アンケート/学校日誌、出席簿の作成など）
- 会議の縮減
- 教材の共有
- 時差出勤の活用
- 電話の留守対応
- 学校行事の縮減
- 朝学習の見直し
- 業間、昼休み、清掃の時間短縮
- PTA行事の縮減
- 部活動ガイドラインの遵守
- 部活動指導員の配置
- 学校運営支援員の配置



80時間超過勤務者はゼロを前提に  
月45時間未満者の割合の更なる向上